

関連者からの声

教育者側の声

【ニュージーランド教育について、日本の教育との差は何だと思えますか？】

(ピーカブーキャリアラボ peekaboo幼稚園 園長 田上 恵氏、以下「田上園長」)
日本の教育と比べると、ニュージーランド教育では子どもの主体性を重んじる教育が徹底されています。年齢によつての定員数や保育士の人数もそうですが、子どもがその時やりたいことをさせてあげられる環境や子どもの個性を引き出すことが出来る環境が整っています。日本は、年少以上になると1クラスの人数が多くなり、集団で一つのことを取り組むことが多く、集団から外れないように教育されているため、そこが大きな違いです。

(ピーカブーキャリアラボ peekaboo幼稚園 主任 末本千恵氏生、以下「末本先生」)
ニュージーランド教育は、主体性や自発性をとても大事にしており、子どもたちが自ら考え、行動したり発言したりすることが多いです。子どもたちが主体となって遊びを展開したり、やりたいことをとことん追求できる時間が多く確保されています。例えば、虫を見つけて“観察したい！”となれば、その子が観察している時間を大事に、絵を描きたい子はとことん描く時間がある、外で遊びたい子はとことん外遊びの時間がある、ということです。自分がしたい遊びをとことん飽きるまで遊び込めることがニュージーランド教育の特徴だと感じます。
日本では先生主体の保育、いわゆる「一斉保育」が多く、先生の言うこと・やることをみんなで行います。カリキュラムもびっちり組まれており、先生たちは時間との戦いです。一見、“話を聞くよい子”“きちんと先生の言うことを聞くよい子”のように思えますが、子どもたちの意思や主体性、自らがやりたい意欲を持って活動することが少なくなります。また、子どもたちが何かのめりこみそうになっても次の活動に移ってしまい、先生が「またあとでね」「もう片付けようね」と終わらせざるを得ないので、そこで子どもたちの意欲や集中力が止まってしまいます。
。一斉保育と自由保育のバランスを大事にしながら、子どもたちがのびのび過ごすことができる環境づくりを行うことが重要大事だと思います。



▲peekaboo幼稚園の園長を務める、田上氏

【子どもの変化・親の変化はありますか？】

(田上園長)

「show and tell (自分の好きな物を紹介する取り組み)」で発表をしていくことで、子どもたちの言語力や考える力がついたと感じます。うまく言葉を繋げられなかったり、言葉がつまる経験を重ねることで、どう話したら伝わるか、どう文章を繋げたらよいかを子ども自身が学んでいます。また、人前で話したいことを発表できたという自信がつき、発言することが楽しくなっていると感じています。さらに、一つのことを時間をかけてじっくり取り組んだり、「ブロックで〇〇を作ったら粘土で遊んで園庭に行く！」と計画を立てて遊んだり、自分の世界に入り込んで遊んでいたりと、子どもの心の充実感が全然違うと実感しています。けんかやトラブルも少なくなり、自分がやりたいことをとことんできる環境のため、子どもたちが常に生き生きとしていて、意欲に満ち溢れています。保護者の方からも、「とにかく園で遊ぶことを毎日楽しみにしている」「家でもじっくり遊べるようになった」「色々なことにチャレンジするようになった」「たくさん話をしてくれるようになった」という声をいただいています。ポートフォリオは、子どもたちで見合ったり、お母さんと見ることで、子どもの自己肯定感が高まり、子ども・保護者・保育士みんなを認め合える素敵な時間となっています。

(末本先生)

遊ぶ時間をしっかり確保できるので、とことん遊びに集中してのめりこむことができる。子どもたちの遊びに対する意欲「これやってみたい」「これはどうなんだろう」と思うことも最後までやり切る事ができるため、幼稚園に行くのが楽しくなっている。遊びを自分たちで見つけることができるため、自然のなかでも、自分たちで遊びを展開することができる。保護者の方には、発表会で行った「show and tell」を通して、自分のことをみんなの前で話すというスピーチ能力が育っていると喜ばれました。

利用する子育て女性の声

【peekaboo幼稚舎のどんなところに魅力を感じて入園しましたか？】

(保護者M様)

まずは、しっかりとした理念があるところ。

自己肯定感、という初めて知る言葉もとても共感できるものでした。

何よりも、先生方がとても楽しそうにお話される姿を見て、ここの幼稚園に私も通いたかったな…と思ったのを覚えています。

次に、開園している時間も魅力です。預かり保育（無料！）も入れると、8:45～18:30まで開いています。お迎え時間が気になると仕事に集中できなくなるのですが、時間を気にせずフルタイムで働くことができるなんて嬉しいと思い、入園を決めました。

(保護者K様)

- ・子ども一人ひとりの個性や気質に合わせて、子供の意思を尊重した保育をしてくれるところ
- ・自己肯定感を高める保育を実施してくれるところ
- ・造形、料理、遠足、体操、公園遊び、川遊びなど魅力的な体験をたくさんできるところ
- ・先生1人あたりの子供の数が少なく、目が行き届いているところ
- ・ネイティブの英語の先生と触れ合うことで異文化に接することができるところ
- ・会社に隣接しているため送迎時間に無駄のないところ



▲照れながらも一人で先生に朝の挨拶をする様子



▲元気よく通園する園児とオフィスに向かう母

【子どもの変化はありますか？】

(保護者M様)

人前では緊張してか、みんなで遊ぶ時間でも、泣いたり壁にくっついていたりして

あまり進んでやりたがらなかった息子ですが、幼稚園入園から3か月後には、

大きな声で積極的に遊びに参加する姿を目撃しました！

家での様子は変わらないので、運動会や発表会でその姿を見た家族も本当に驚いていました。

先生方に、きっと息子のいいところをくすぐりつつ、見守ってもらったからだと思います。

(保護者K様)

- ・毎日とても楽しそう
- ・細かく指図するのではなく、次の行動を促す声かけで正しい行動できるようになった
- ・できないと思っていることも少しずつ挑戦するようになった
- ・人前で頑張って話（発表）ができるようになった
- ・幼稚園で得た体験や知ったこと、感じたことをたくさん話してくれるようになった